

速報

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2016年(平成28年)

6月23日(木)

発行所 琉球新報社

郵便番号 〒900-8525

那覇市天久905番地

©琉球新報社2016年

恒久平和誓う



戦後71年「慰霊の日」

正午の時報に合わせ、黙とうする沖縄全戦没者追悼式の参列者ら＝23日、糸満市摩文仁の平和祈念公園

沖縄は23日、沖縄戦から71年となる「慰霊の日」を迎えた。最後の激戦地となった糸満市摩文仁の平和祈念公園で20万人余の戦没者を追悼する「沖縄全戦没者追悼式」(県、県議会主催)が開かれた。公園には早朝から多くの遺族らが訪れ、南洋群島での犠牲者らも含めた戦没者24万1414人分の名前が刻まれた「平和の礎」に手を合わせた。

追悼式には、安倍晋三首相や関係閣僚のほか、衆参両院議長らが参列した。参列者たちは正午の時報に合わせて、黙とうした。

翁長雄志知事は平和宣言を読み上げ、20万人余の尊い命が犠牲となった沖縄戦の記憶から、恒久平和を祈願し、アジア・太平洋地域の懸け橋として平和の実現に努力していく県民の決意を表明した。

元米海兵隊の軍属による女性暴行殺人事件にも言及し、戦後71年を経ても米軍専用施設の約74%が県内に集中し、広大な基地がある故に事件・事故が後を絶たない現状を訴える。日米地位協定の抜本的な見直しや海兵隊削減を含めた米軍基地の整理縮小を強く求めた。

普天間飛行場の名護市辺野古への移設については県民の理解を得られていないとし、移設を容認できない姿勢をあらためて示した。

平和の礎では、71年前に飢えと渴きで亡くなったといった戦没者たちを思い、遺族らが水や食べ物を提供し、追悼した。宜野湾市からバスを乗り継いで来たという名城文子さん(89)は、祖父母と両親、姉、妹を亡くした。「みんな別々で、母と姉はどこで亡くなったか分からない。だから毎年ここに会いに来ている」と話し、家族の名前をそっとなぞった。

公園
涙を流し、刻銘された戦没者に話し掛けるお年寄り＝23日午前、糸満市摩文仁の平和祈念公園



戦後71年目の慰霊の日、平和の火の背後に朝日が昇る＝23日午前6時すぎ、糸満市摩文仁の平和祈念公園



糸満市役所から平和祈念公園に向かい行進する平和行進の参加者ら＝23日午前9時すぎ、糸満市



轟の壕を訪れ戦没者の冥福を祈る糸満高校の生徒＝23日午前8時57分、糸満市伊敷



魂魄の塔の前で涙を流しながら祈る遺族の女性＝23日午前8時ごろ、糸満市米須の魂魄の塔